

命を守る仕事に釘付け

五郷小学校 社会見学で熊野市消防署へ

熊野市五郷小学校（上林和弘校長）の1～4年生八人が十六日、熊野市消防署と熊野市立図書館を社会見学した。社会科の授業の一環で、熊野市消防署

では命を守る仕事の内容や消防士としての思いを学ぶことが狙い。消防職員の案内で、署内をつぶさに見て回った。訓練塔では、十五

メートル隊員がロープだけで昇降することを聞き、「とても高くて怖い」と驚いていた。指令室では、消防

通報を受けると「火災」「救急」「救助」のいずれかの音を鳴らして知らせ、速やかに出動します」と説明。パソコンなど様々な通信機器があり、子どもたちは

「火事の現場は恐くないですか?」「消防車のタンクの容量は?」「消防車のは

しどの高さは?」など質問。消防職員は素直な疑問に丁寧に答えていた。熊野市立図書館では、公共施設の利用の仕方などの説明を受け、本に対する興

味・関心を高めていた。なお、五六年生は、熊野少年自然の家で体験学習を実施。飛鳥、新鹿岡小学校と合同で行い、交流も深めた。



熊野市消防署を訪れた五郷小学校の児童たち

「スニーカーがロープだけで昇降することを聞き、「とても高くて怖い」と驚いていた。指令室では、消防職員が「二一九番を受理する場所です。通報を受けると「火災」「救急」「救助」のいずれかの音を鳴らして知らせ、速やかに出動します」と説明。パソコンなど様々な通信機器があり、子どもたちは



救急車の内部を初めて見学

小学生たちは「火事の現場は恐くないですか?」「消防車のタンクの容量は?」「消防車のはしどの高さは?」など質問。消防職員は素直な疑問に丁寧に答えていた。熊野市立図書館では、公共施設の利用の仕方などの説明を受け、本に対する興味・関心を高めていた。なお、五六年生は、熊野少年自然の家で体験学習を実施。飛鳥、新鹿岡小学校と合同で行い、交流も深めた。